

えほん

やくそく —ほくらはぜったい戦争しない—

那須正幹 さく 武田美穂 え
ポプラ社

「にいちゃん、いってらっしゃい」、
「にいちゃん、おかえり」。ばあちゃんは、
毎日まいにちぼくを「にいちゃん」とよぶ。
ばあちゃんのにいさんのようへい洋平さん
は、1945年8月6日におとされたねん がつむいか原爆げんぱく
で死んだ。死んだひとにまちがわれ
るなんて、いやだおもと思ったけど。たっ
たひとりいきのこったばあちゃんは、
かえってこないにいさんをずっとまっ
ているのかもしれない。

なにかいいことあった？

ミーシャ・アーチャー 作 石津ちひろ 訳
BL出版

おじいちゃんとうえんでまちあわ
せをしたダニエル。「なにかいいこと
あったかい？」と、おじいちゃんから
たずねられたダニエルは、おおいそ
ぎで“なにかいいこと”をさがしに、こ
うえんをめぐります。おきにいりのい
わ、ハゴロモガラス、かあさんがモ、
チョウたちがそれぞれのいいことを
おしえてくれました。そして、ダニエ
ルじしんのいいことはというと。

低学年

おさるのしま

いとうひろし 作・絵
講談社

おさるのぼくは、みなみのしまにすんでい
ます。おさるのほかにもちいさないきものた
ちがいて、みんななかよくくらしています。で
も、あるときから、まもののおたけびのよう
なこえがきこえてくるようになりました。すが
たはみえないけれど、おちつきません。おじ
いちゃんに「おっかないねえ」というと、ある
よるのできごとをはなしてくれました。おじ
いちゃんは、まものにあったというのです。

つくしちゃんとながれぼし

いとうみく 作 丹地陽子 絵
福音館書店

がっこう学校からかえったつくしちゃんは、ベッド
の上でうえためいきばかりついています。買っ
てもらったばかりのいろえんぴつを、いわく
らくんになんぼん何本かおられてしまったのです。
おねえちゃんからは「つくしのき気もちをちゃ
んとつたえな」とい言われますが、どうつたえ
たらいいかわかりません。つくしちゃんは
気もちをつたえられるかな？つくしちゃん
のお話はなしが3つはい入っているよみものです。

子ねずみウォルターはのんびりや

マージョリー・フラック 作・絵
おびかゆうこ 訳 徳間書店

むかしあるところに、ウォルターという名まえの子ねずみがいました。ウォルターは、ネズミ村にある大きな家で、おとうさん、おかあさん、五ひきのおにいさんと六ひきのおねえさんといっしょにくらしていました。ウォルターはのんびりや。なにをするにも時間がかかります。ほかの家族と同じようにできないので、とうとう家族とは顔をあわせることがなくなっていきました。

ある日、学校から家に帰ると、家の中はからっぽ。家族はのんびりやのウォルターのことをわすれてひっこししてしまったようです。

ウォルターはぶじに家族に会えるのでしょうか。

おとなになりたいくないわたし

夜野せせり 作 友風子 絵
ポプラ社

ある出来事がきっかけで、熱中していたスイミングをやめてしまったすみれ。注目されるのがいやだから、クラスでも目立たないように過ごしている。同じクラスのひまりはスポーツ万能で、明るくて、自分の意見がハッキリ言える、人気者。すみれは、自分と正反対のひまりをうらやましく思っていた。

ある日、道でうずくまっているひまりを助けたことをきっかけに、親しくなった二人。話していくうちに、ひまりもすみれと同じ悩みをかかえていたことを知る。

悩んでいる自分の味方をしてくれるような、あたたかい気持ちになるお話です。

高学年以上

雨上がりのスカイツリー

高森千穂 作 丹地陽子 絵
国土社

小学校六年生の菜々実は、モノマネ芸人をしているおとうさんとふたり暮らし。

演歌歌手の若いころのモノマネをしているおとうさんが菜々実は大好きで、週に2回お弁当を手作りしては、おとうさんのはたらく「プルクラショーハウス」へとどけている。そんな菜々実だが、おとうさんのショー本番を見たことがなかった。おとうさんが「おとうさんの職場はオトナの世界だ」と言って見せてくれないのだ。

ある日、ショー会場へもぐりこんだ菜々実は、そこで見たおとうさんの姿にショックをうける。そして、その日ハウスでおこったある事件をきっかけに、ふたりの生活もかわっていく。

キャロットボタン

こまつあやこ 著
毎日新聞出版

ぼくは、私立のスポーツ小学校に通う、5年生の友真。だけど、実は走るのが苦手で、みんなにかくれてこっそり、趣味の童話を書いている。走るのが苦手なウサギの話。

絶対誰にも見られたくなかったのに、ある日童話を書いたノートを学校の図書室に忘れてしまい、それを背の高い女の子に見られてしまった！

次の日、その子が教室に来て、ぼくに驚くことを言ってきた。「この童話、リレーしない？ ボタンを渡すみたいに、この童話をメンバーが順番に書いていくの。」